

グッゲンハイム美術館へようこそ

20世紀の最も重要な歴史的建築の1つ、グッゲンハイム美術館を訪れるには、今が絶好の時期です。3年にわたった修復作業により、巨匠建築家フランク・ロイド・ライトの設計によるこの建築は美しく改装され、2009年5月に迎える50周年に向けて、まさに息を呑むようなたたずまいを見せています。



沿革

グッゲンハイム美術館の名称は、その創設者であるアメリカの大実業家ソロモン・R・グッゲンハイム (Solomon R. Guggenheim) の名前に由来しています。グッゲンハイムは、絵画顧問である女流画家ヒラ・リベイ (Hilla Rebay) に非対象絵画の魅力を説かれ、彼女の助言を受け

て、1920年代後半に非対象絵画の収集を始めました。物質的な世界を描く作品とは異なり、また物質的な世界を抽象的に表現した抽象芸術とも一線を画す非対象芸術の発想は、有形の現実から得られたものではなく、純粋な思考、すなわち純なる精神から得られたものです。リベイにとって、この物質社会からの離脱は、神秘主義世界の高みへの飛躍だったのです。

リベイは、ロシア生まれの画家ヴァシリー・カンディンスキーの信望者になりました。カンディンスキーは具象的な表現を排した画家で、1911年に執筆した学術論文「On the Spiritual in Art (Über das Geistige in der Kunst) (芸術における精神的なもの)」の中で、彼の理想主義的な非対象性について説いています。当然のことながら、リベイはグッゲンハイムにカンディンスキー作品の収集を勧め、最終的にルドルフ・パウアー (Rudolf Bauer) やラズロ・モホリ・ナジ (László Moholy-Nagy) といった画家の作品など、100点余りの絵画が収集されました。

初めのうちは、ニューヨークにあるプラザホテル内のグッゲンハイムのスイートルームが、彼の絵画コレクションの鑑賞スペースとして使われていました。その後1937年にコレクションの増大に伴い、ホテルの彼の部屋では手狭になったため、グッゲンハイムはソロモン・R・グッゲンハイム財団を設立し、その2年後にはヒラ・リベイを初代館長として財団初の美術館である Museum of Non-Objective Painting (非対象絵画美術館) をマンハッタンのイースト54丁目に創立しました。4年後、財団は、ますます増え続けるグッゲンハイム絵画コレクション (このときまでに、マルク・シャガール (Marc Chagall)、ロベール・ドロナー (Robert Delaunay)、フェルナン・レジェ (Fernand Leger)、アメデオ・モディリアーニ (Amedeo Modigliani)、ラズロ・モホリナギ (Lazlo Moholy-Nagy)、パブロ・ピカソ (Pablo Picasso) などの作品を収集) を収蔵する美術館の設計を革新的な建築家フランク・ロイド・ライトに依頼しました。ライトがこのプロジェクトを完成するまでに16年間かかり (スケッチ700枚、6セットの建築図面)、ソロモン・R・グッゲンハイム美術館は1959年10月21日に開館しました。そして、この美術館の螺旋状のシルエットはたちまちニューヨークの名所になりました。

フランク・ロイド・ライトの建築

ソロモン・R・グッゲンハイムのアートコレクションを収蔵する美術館建設を依頼したのは、グッゲンハイム財団初の Museum of Non-Objective Painting (非対象絵画美術館) の初代館長ヒラ・リベイでした。1943年6月1日、リベイはフランク・ロイド・ライト宛の手紙に「魂の神殿、記念碑となるものを

建ててほしい!」と書きました。リベイが既定のスタイルにではなく、非対象性という理想に沿った哲学に基づいて設計された建築に対するライトのこだわりに共感を感じたのは確かです。また、グッゲンハイム美術館の建造を手がけたライトの上下逆になったジグザグ設計 (ライトが「純なる楽観主義」と称した設計) には、その共感をしっかりと確認することができます。こうしたライトの取り組みにより、そこに展示される絵画コレクションと並び称される20世紀最高の建造物の1つが誕生しました。

ライトは、88丁目と89丁目間の5番街にある現在の場所に決めるまでに、ニューヨークにあるいくつかのロケーションを候補として検討しました。ライトにとって、セントラルパークに隣接していることが鍵となりました。ニューヨークの喧騒と混雑を和らげるとともに、インスピレーションを与えたからです。

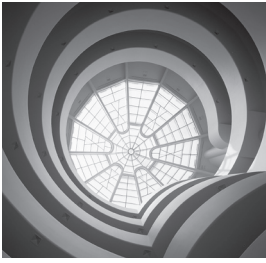
ライトの思いは、自然の有機的形態を建築で表現することでした。グッゲンハイム美術館のために描いたライトの螺旋状の設計は、連続するスペースが次々と自由に連なって流れる巻き貝の殻を彷彿させます。ライトの新しい設計構想は、展示室から展示室に次々と続く列を成し、きびすを返して出口に向かって同じ経路を戻ることを入館者に強いる従来の美術館モデルを廃して、入館者をエレベーターで館の最上部に速やかに運び、緩やかな螺旋状のスロープに沿って作品を鑑賞しながらゆったりと歩いて降りてゆけるようにすることでした。

「ライトの建造物のおかげで、ひとりの建築家が自己を高く表現して、甚だしく個人的な美術館を設計することが社会的にも文化的にも受け入れられるようになった。この意味で、現代のほぼいずれの美術館もグッゲンハイム美術館の子である。」

ポール ゴールドバーガー

ライトの建築において円形は繰り返し現れるモチーフで、ロタンダ (展示スペース) や天窗をはじめ、テラゾ床の象眼模様などの詳細に至るまで、各所に反映されています。同時に、三角形、楕円形、正方形なども使われています。ライトの晩年の代表作には、近代主義建築の幾何学論に対するライト独自の解釈が表されています。

残念ながら、戦後のインフレ、建設現場や建築基準法上の要件の変更、数年にわたった建設の遅延などで、ライトの設計や施工図には数々の変更が強いられました。それでも1959年10月21日、すなわち美術館建設の依頼から16年後、創立者ソロモン・R・グッゲンハイムの死の10年後、またフランク・ロイド・ライトの死の6か月後に、グッゲンハイム美術館は、我先にと殺到したぼう大な数の入館希望者の列が5番街で数時間にわたって待ち並ぶ中、開館されました。ライトによる現代建築の記念碑は、その螺旋状スロープ、ロタンダ (展示スペース)、半球形の天窗などを擁し、芸術を堪能できるユニークな空間として、今日に至るまで入館者を魅了し続けています。



グワスマイ・シーゲル&アソシエイツ による修繕

大きいロタンダの隣の小さめのロタンダとタワーは、もともとリベイとグッゲンハイムの居住スペースやアーティストのスタジオを収容するために設計されたものでした。ところが、オフィス、収蔵庫、展示

スペースなどの必要に迫られて1968年に行った増築の結果、建築工学上の問題が続けて発生しました。1980年代初め、グッゲンハイム財団はオフィスやギャラリーなどのスペースの増設と同様に重要な、フランク・ロイド・ライトの意図を確実に全うする目的でGwathmey Siegel & Associates Architects, LLCに増改築を依頼しました。

グッゲンハイム美術館は、Gwathmey Siegel & Associatesによる8フロアの増築と改修の完了に伴い、3年間の閉館を経て、1992年に再び一般公開されました。この増築と改修の結果、2つのオフィスフロアと4つの展示室が新たに増築され、ロタンダ最上階(6階)のスロープが再オープンされました。このスロープは、連続して循環するパターンという、ライトが当初抱いていた美術館の理想像を実現したものでした。

このほかに行われた近年の増改築には、1997年の改修、フランク・ロイド・ライトの当初の設計に含まれていた、ピーター・B・ルイス劇場の公開、また2001年に公開された広さ8,200平方フィートの教育施設、サックラー美術教育センター(Sackler Center for Arts Education)などがあります。

2005年9月から2008年7月まで、グッゲンハイム美術館は閉館したまま、館の周囲を足場で囲み、建築家、構造技術者、修復師などによるこの歴史的建造物の総合的な状態の評価と改修工事が行われました。美術館は構造的には良好な状態でしたが、11層の塗装の除去、外壁のひび割れの補修、鉄骨構造の腐食部分の補修、コンクリートの修復や補強などが必要でした。こうした総合的な改修工事が2008年9月に完了したことで、美術館は内外ともに、2009年に迎える50周年に向けて最高の状態にあると言えます。

グッゲンハイム美術館が初めて披露されたとき、アーティストを含む一部の人々は、一風変わったデザインの美術館に展示される美術作品が力負けすると、ライトを批判しました。しかし、ライトは自身の概念の正当性を主張して次のように言いました。「とんでもない、まったくの逆だ。建築と絵画をこれまでのアートの世界には決して見られなかった、絶えることのない美しい調和の取れた状態におくためののだ」。年数を経るにつれて、アーティストも学芸員も、このスペースが新たななる挑戦を迎える場であることを認め、さらにはこの場に特有の作品を生む発想の源とするようになりました。

幾何学的なデザインの静的な規則性を打ち破り、それを有機形態の柔軟性と組み合わせ、ライトが生み出した力強い建造物は現代においてもなお、50年前と同様に斬新です。ソロモン・R・グッゲンハイム美術館は、まさにライトの建築家としての天性の才能と、彼の計画の実現を可能にした創立者の冒険心を雄弁に物語っています。

今日では、慎重かつ細やかな改修作業の完了に加え、長年にわたる重要な個人コレクションの追加、惜しめない寄贈、また思慮深い収集の結果、刺激的な特別展覧会と19世紀後半から現在に至るまでの豊かな常設コレクションを、ユニークな。

常設コレクション

グッゲンハイム美術館の物語は、主に、現在も増え続けている、非常に異なったいくつもの個人コレクションの物語とも言えます。これらの個人コレクションは、長年にわたる重要な美術作品の寄贈や収集により、19世紀後半から現在に至るまでの1つの豊かな層をなす常設コレクションとして結晶しました。

ソロモン・R・グッゲンハイム創立コレクション

1937年から1949年にかけて、ソロモン・グッゲンハイムは、マルク・シャガール、ヴァシリー・カンディンスキー、ピエト・モンドリアン、パブロ・ピカソなどのアーティストによる約600点の美術作品をグッゲンハイム財団に寄贈しました。

タンハウザー コレクション

ジャスティン・K・タンハウザーの貴重なコレクション(印象派、後期印象派をはじめとする、近代フランス美術の名作)が遺贈されたもので、ヴァン・ゴッホ、エドワール・マネ、パブロ・ピカソ、カミーユ・ピサロなどの作品が含まれ、グッゲンハイムコレクションの歴史的な幅を大きく広げました。

パンサ コレクション

1990年代初期に、グッゲンハイム財団は、ジュゼッペ・パンサ・ディ・ビウモ伯爵(Giuseppe Panza di Biumo)と彼の妻ジョバンナ(Giovanna)の有名なコレクションから、350点を超えるミニマリズム、ポストミニマリズム、コンセプチュアルアートの作品を買いました。これらの作品群は、グッゲンハイムコレクションの戦後美術の所蔵に深さと品質をもたらしました。

カール・ニーレンドルフ エステート

1948年、グッゲンハイム財団はニューヨークの画商カール・ニーレンドルフ(1889~1947)の全収集品を購入し、コレクションの幅を大きく広げました。彼のコレクションには、ドイツやオーストリアの主要な表現主義アーティストの作品や、ジョアン・ミロやパウル・クレーなどのシュールレアリスムの画家の作品、抽象表現主義の画家アドルフ・ゴットリーブの初期の絵画数点が含まれています。

キャサリン・S・ドライアからの遺贈

1953年、グッゲンハイム財団は、20世紀の美術に強い影響を及ぼした芸術家の1人であるキャサリン・S・ドライア(1877~1952)からの小規模ながらも重要なコレクションの遺贈を受けました。この遺贈には、コンスタンチン・ブランクーシの*Little French Girl*(1914~18)、アレキサンダー・アーキペンコのブロンズ彫刻(1919)、アレキサンダー・カルダーのスタンディング モビール(1935)、ジュアン・グリスの無題の静物画(1916)、ドイツ人ダダイスト、クルト・シュヴィッターズにより1919年から1921年の間に制作されたコラージュ3点など、重要な作品が含まれています。

ヒラ・リベイ コレクション

グッゲンハイム美術館の初代館長ヒラ・リベイは、生涯にわたるアーティストとの絶え間ない交際を通して、独自に貴重なアート コレクションを築きました。カンディンスキー、クレー、モンドリアン、シュヴィッターズの作品など、リベイの財産の一部は彼女の死の4年後、1971年にグッゲンハイム美術館に遺贈されました。

ロバート・メープルソープ財団からの寄贈

1992年、ロバート・メープルソープ財団は、メープルソープの写真の最高傑作とユニークなオブジェ200点余りの受取人に、グッゲンハイム財団を指名しました。この寄贈は複数回に分けて行われ、その結果、グッゲンハイム財団はこの重要なアメリカ人アーティストの作品を最も幅広く収蔵する施設となり、グッゲンハイム美術館の写真コレクションと展覧会プログラムの発足につながりました。

ボーヘン財団からの寄贈

2001年、グッゲンハイム美術館は、ボーヘン財団(私設の慈善団体)より、45人のアーティストによる275点の美術作品を寄贈されました。これによって当館は、映画やビデオ作品をはじめ、ダイナミックで勢いのある、世紀の変わり目を代表するニューメディア作品のコレクションを大幅に拡大しました。杉本博司、サム・テイラー・ウッド、ソフィ・カルによる卓越した写真作品から、イニーゴ・マングラノ・オバーリエ、ピエール・ユイグ、ウィリー・ドハーティによる、展示室全体を使った大規模なビデオインスタレーションまで、様々な作品が含まれています。

建築に関する Q & A

美術館が一般公開されたのはいつですか?

1959年10月21日水曜日の午後2時です。 فرانク・ロイド・ライトの死の6ヶ月後でした。開館初日には、我先にと美術館を訪れた入館者が3,000人を超え、開館直後の日曜日には、この新しい美術館を一目見ようと1万人を超える入館希望者が列をなしました。

美術館の高さは何メートルありますか?

高さは、97フィート9インチ(29.79メートル)あります。

ベンチなどもフランク・ロイド・ライトが設計したのですか?

はい、そうです。ほぼ全ての建築構造を設計したように、ライトは椅子やエレベーターなどの細部に至るまで、自らデザインするというこだわりを持っていました。

正面玄関の紋章には何と書かれていますか?

「Let each man exercise the art he knows (誰もが自分のわかるアートを実践せよ)」と書かれています。アリストファネス作の*Wasps* (紀元前422年)からの引用です(下にアリストファネスの名前がギリシャ文字で表記されています)。

私のお気に入りの絵は、現在展示されていますか?

美術館の常設コレクションの中から厳選された作品が常時展示されています。ただし、作品やフレームの継続的な修復作業、展示スペースの制限、世界各地のパートナー美術館やその他の美術館への貸し出しにより、常設コレクションのすべての作品が必ずしも常時公開されているとは限りません。最新の展示情報については、guggenheim.orgにアクセスしてください。

スロープの長さは?

スロープの長さは1,416フィート(431.6メートル)ないし1/4マイル以上あります。

展覧会の経路が下から上へ向かっているのはなぜですか?

スロープは観客が上から下に下りてゆくようにデザインされていると思っていました。

フランク・ロイド・ライトの考えでは、観客はエレベーターで最上階に昇ってからスロープを下りるようになっていました。ただし現在では学芸員が、上下どちらからでも鑑賞できるように展示を設計しています。

美術館の建設にはどのくらいの期間がかかりましたか?

美術館建設を依頼したのは1943年でしたが、建設が実際に始まったのは1956年5月で、完成までに3年以上かかりました。

ニューヨークには、グッゲンハイム美術館以外にもフランク・ロイド・ライトの建築がありますか?

ライトはニューヨーク市内および近郊に4つの建築を設計しました。その中で、グッゲンハイム美術館は最大のものです。ニューヨーク市内にあるライトの他の作品には、ホフマン・メルセデスベンツ ショールーム(430 Park Avenueと56丁目、一般に公開)の内部改修や、ウィリアム・キャスの住宅「Crimson Beech」(ニューヨーク州スタテン島、1959年)があります。

増築が行われたのはいつですか?設計者は誰ですか?

グッゲンハイム美術館は1990年から1992年まで閉館され、グワスマイ・シーゲル&アソシエイツによる内部の改修と、8階建ての別館の増築工事が行われました。この工事により、2つのオフィスフロア、4つ展示フロア、さらに約20,000平方フィートの展示スペース(65%増)が増設されました。

この建築とフランク・ゲーリーの関係は?

フランク・ゲーリーは、グッゲンハイム美術館ビルバオを設計した建築家です。また現在、2013年に開館予定のグッゲンハイム アブダビの設計にも取り組んでいます。グッゲンハイムでは、フランク・ゲーリーの作品の展覧会「Frank Gehry: Architect」を2001年に開催しました。

世界各地のグッゲンハイム美術館

世界中のすばらしい建築や美術作品を鑑賞できる各地のグッゲンハイム美術館を訪れてみてください。1976年、グッゲンハイム財団は、ソロモン・グッゲンハイムの姪であるペギー・グッゲンハイムのベニスの邸宅と彼女の比類ない現代美術コレクションの継承を期に、真の世界的な美術館になるべく第一歩を踏み出しました。近年、グッゲンハイム財団はビルバオとベルリンに美術館を創設して世界に向けたその取り組みを継続するとともに、2013年にはグッゲンハイムアブダビを開館する予定です。ただし、ニューヨークのソロモン・R・グッゲンハイム美術館はグッゲンハイム財団の中心であることに変わりはありません。

ペギー・グッゲンハイム コレクション

Palazzo Venier dei Leoni
Dorsoduro 701
I-30123 Venezia, Italy

グッゲンハイム美術館ビルバオ

Avenida Abandoibarra, 2
48001 Bilbao, Spain

ドイツ グッゲンハイム美術館

Unter den Linden 13/15
10117 Berlin

グッゲンハイム アブダビ美術館

(建設予定)

開館時間

土曜日～水曜日、金曜日 10:00～17:45
木曜日は休館です。

入館料

一般大人 18ドル、学生 (学生証提示) 15ドル
高齢者 (65歳以上) (証明書提示) 15ドル
会員および子ども (12歳未満) 無料

美術館ツアー情報

ポータブル音声ガイドの貸し出しと、ガイドツアーは無料です。ガイドスタッフによるツアー: 毎日 11:00と13:00
音声ガイドを借りるか、美術館ガイドツアーに申し込むと、現在の展示、常設コレクション、フランク・ロイド・ライトの建築についての解説や、対話形式のツアーを楽しむことができます。[ツアーの時刻が変更される場合があります。最新のツアー時間については、受付近くにある電光掲示板で確認してください。]

団体割引

10人以上の団体の予約では団体割引と外国語ツアーの申し込みが可能です。電話によるお問い合わせは1 212 423 3636まで。詳細については、www.guggenheim.orgにアクセスしてください。

ミュージアムストアの営業時間

土曜日～水曜日、金曜日 9:30～
木曜日 11:00～

電話によるお問い合わせは1 800 329 6109まで。

またはwww.guggenheimstore.org/にアクセスしてください。グッゲンハイム美術館ならではのコレクション、展覧会、建築にちなんだユニークなギフト、おもちゃ、本などをお買い求めできます。

教育プログラム

サックラー美術教育センターを訪れて、美術館体験をさらに豊かなものにしてみませんか。サックラーセンターは精力的な教育施設/学習研修室で、メイン ロタンダ (展示スペース) の地下にあります。アクセスには、アネックス2階からエレベーターを使ってください。

全年齢層を対象とする、ワークショップ、シンポジウム、レクチャー、映画上映、特別公演などの日程については、www.guggenheim.org/educationにアクセスしてください。

美術館会員制度

グッゲンハイム美術館の会員になりませんか。グッゲンハイム美術館の会員になると、入館無料、会員限定イベントへの特別招待、ミュージアムストアでの割引などの特典があります。会費はすべて、世界各国からの来館者を魅了するグッゲンハイム美術館での特別展覧会や、プログラムを通じた教育活動に充てられます。

電話によるお問い合わせは1 212 423 3535まで。

またはwww.guggenheim.org/membershipにアクセスしてください。

メーリングリスト

展覧会や教育プログラムへの参加の機会をのがさないようにするために、当館のメーリングリストに加入しませんか。加入を希望する方は、www.guggenheim.org/maillinglistにアクセスしてください。

美術館入館規定およびガイドライン

当美術館では所蔵作品や、他施設から借りている美術作品の保護・保全にあたり、入館者の皆様に以下の規定の遵守をお願いしています。

ご協力をよろしくお願ひいたします。

- ・大型バッグ、荷物、二人用ベビーカー、傘などは、展示室に入る前にクロークに預けてください。
- ・小さなお子様を伴って入館する際には、一人用ベビーカーをご使用ください (クロークで貸出し有り)。

- 美術作品には触れないでください。問題ないように見えても、絵画や彫刻は少し触れただけで大きなダメージを受ける恐れがあります。
- 飲食物(哺乳ビンなども含む)は、館内に持ち込まないでください。
- グラウンドフロアを除き、いずれの階においても、写真やビデオの撮影は禁止されています。また、三脚やフラッシュの使用は全館で禁止されています。
- お子様には館内を走ったり、アート作品に触れたりさせないでください。
- ペンや絵の具などの筆記具は、館内では使用しないでください(スケッチやメモに鉛筆を使用することは可能です)。
- カフェ、スカルプチャー テラスを含む館内全域が禁煙となっています。
- グラウンドフロアの噴水にコインなどの異物を投げ込まないでください。

アクセシビリティ

グッゲンハイム美術館では身体的に不自由な方のために、できる限りのサービスを提供する態勢が整っています。

- 美術館には、ハイ ギャラリーを除いて、車椅子でもアクセスできます。ハイ ギャラリーは、最初のスロープを上った先にあり、低い2段の階段でアクセスできます。ハイ ギャラリーの一部は、第1ロタンダと第2ロタンダのスロープから見ることができます。
- 車椅子の貸し出しは無料です。詳細については、入り口でセキュリティスタッフにおたずねください。車椅子の事前の予約は行っていません。
- 手動の車椅子を使用する方の介護者には、無料入館券が用意されています。
- 館内カフェには、屋外スロープまたは屋内チェアリフトでアクセスできます。詳細についてはセキュリティスタッフにおたずねください。
- 車椅子で利用できる化粧室は、一階(カフェの近く)、地下(サックラー センターの近く)、および7階にあります。
- エレベーターはグラウンドフロアから利用できます。
- 大きな活字のグッゲンハイム美術館ガイドと音声ガイドは、受付窓口で入手いただけます。
- 特別展覧会、常設コレクションから選り抜かれた美術作品、美術館の構造についての説明を聴くことができる音声ガイドを用意しています。音声ガイドは首に掛けてご利用できます。詳細については、音声ガイド案内窓口でおたずねください。
- Mind's Eye Tour (心の眼で感じるツアー)は、視覚的に不自由な方を対象にした音声プログラムです。このプログラムは定員が限られています。詳細(または座席の有無)に関する電話によるお問い合わせは1 212 360 4355まで。Eメールによるお問い合わせはaccess@guggenheim.orgまで。

- ピーター・B・ルイス劇場で行われる全パフォーマンスやレクチャーには、赤外線式補聴器が用意されます。詳細については、案内係におたずねください。
- 介護犬の入館は可能です。

質問のある方

来館中に質問のある方は遠慮なくおたずねください。

- 質問のある方はどんなことについても、入り口の左側にある案内窓口のスタッフに遠慮なくおたずねください。
- 黒いユニフォームに「ギャラリー ガイド」のバッジとオレンジ色の「案内係」のピンを付けたギャラリー ガイドが館内に配置されています。美術館や特定の作品について質問のある方は遠慮なく質問してください。ギャラリー ガイドは警備員としても教育ガイドとしても研修を受けています。また、ギャラリー ガイドのバッジには、対応可能言語を示す旗も付いています。
- 美術館や展覧会の情報についてさらに詳しく知りたい方のために、デイリー ツアーが用意されています。ツアーは無料で、時間は案内窓口に掲示されます。
- 美術館を出た後で質問のある方は、電話もしくはEメールでお問い合わせください。電話によるお問い合わせは1 212 423 3618まで。Eメールによるお問い合わせはvisitorinfo@guggenheim.orgまで。

Guggenheim MUSEUM

1071 Fifth Avenue (at 89th Street)
New York NY 10128 0173
www.guggenheim.org
212 423 3500